



主要な農作物の生育情報

平成23年度 第5号

(平成23年10月17日)

福島県農林水産部農業振興課



【水 稲】

水稻の成熟期は、農業総合センターの生育調査では、本部（郡山市）では平年並みでしたが、会津地域研究所、浜地域研究所では平年より2～7日早まりました。また、出穂期から成熟期までの期間である登熟日数では、平年より1～3日早まりました。（表1）

表1：水稻主要品種の成熟期と登熟日数（農業総合センター）

場 所	品 種	田植日 (月日)	成熟期			登熟日数		
			本年 (月日)	平年 (月日)	平年差 (日)	本年 (日)	平年 (日)	平年差 (日)
本 部	ひとめぼれ	5.16	9.15	9.14	+1	39	40	-1
	コシヒカリ	5.16	9.26	9.27	-1	42	45	-3
会津地域 研究所	ひとめぼれ	5.20	9.13	9.15	-2	39	41	-2
	コシヒカリ	5.20	9.20	9.23	-3	42	44	-2
浜地域 研究所	ひとめぼれ	5.10	9.09	9.16	-7	40	43	-3
	コシヒカリ	5.10	9.24	10.01	-7	46	49	-3

稲刈り作業は、各農林事務所による調査では県全体の刈取始期（5%）は9月25日（平年9月24日）でほぼ平年並み、その後もほぼ平年並みの推移となっております。

【野 菜】

1 夏秋きゅうり

県内各地の露地栽培では、8月の高温・乾燥や成り疲れによる草勢低下、9月下旬からの気温低下により、栽培を終了しているほ場が多くなっています。病害虫では褐斑病、炭疽病、コナジラミ類の発生が多くなっています。

2 夏秋トマト

県南地方では現在14段果房収穫中、南会津地方では現在9段果房収穫中で8月下旬から9月上旬に摘芯を行っています。いずれも生育は平年並みですが、9月下旬からの気温低下により着色が進まず収穫量は減少しています。病害虫では、葉かび病や灰色かび病の発生が多くなっています。

3 サヤインゲン

県中地方では、現在6月下旬～8月上旬播種のものが収穫終盤となっています。収穫量は9月下旬の台風の影響及び気温の低下により減少してきています。病害虫では角斑病、灰色かび病、アブラムシ類、ハモグリバエ類の発生が見られます。

4 夏秋ピーマン

安達地方や田村地方の露地栽培では、収穫後半となっています。いずれの地方とも9月下旬からの気温の低下で果実肥大が遅くなり、収穫量は減少し黒あざ果の発生が見られます。病害虫では、炭疽病、斑点病、タバコガ類、アザミウマ類の発生が多くなっています。

5 夏秋ナス

安達地方や田村地方の露地栽培は、収穫後半となっています。いずれの地方とも9月下旬からの気温の低下で果実肥大が遅くなり収穫量が減少しています。病害虫では、うどんこ病、灰色かび病、オオタバコガの発生が見られます。

6 秋冬どりブロッコリー

県南地方での生育は概ね平年並みですが、一部転作田では9月下旬の台風による湿害で生育にバラツキが見られます。なお、出荷盛期は10月中旬頃となります。害虫ではアオムシ、ヨトウムシの発生が見られます。

【果 樹】

1 モ モ

農業総合センター果樹研究所（以下、果樹研究所という）における「川中島白桃」の収穫始めは8月26日で平年より1日遅く、収穫盛りは8月31日で平年より3日遅れました。果実の大きさは381gで平年より大きく、糖度は11.1%で平年より低い状況でした。

県北地方では、7月28日から「あかつき」の選果が始まりました。糖度は平年並み～やや低く、果実肥大は平年より大きい傾向にありました。

2 ナ シ

果樹研究所における「幸水」の収穫始めは8月29日で平年より2日遅く、収穫盛りは8月30日で平年より3日早まりました。果実の大きさは352gで平年より小さく、糖度は11.5%で平年より低い状況でした。「豊水」の収穫始めは9月15日で平年並み、収穫盛りは9月20日で平年より1日早まりました。果実の大きさは415gで平年よりやや小さく、糖度は12.1%で平年よりやや低い状況でした。

県内産地では、「豊水」の選果が9月10日から始まりました。糖度は平年並み、果実肥大は平年並み～やや大きい状況でした。

3 リンゴ

果樹研究所における「つがる」の収穫始めは8月26日で平年より2日早く、収穫盛りは9月1日で平年より3日早い状況でした。果実の大きさは318gで平年より大きく、糖度は12.8で平年並み～やや高い状況でした。

果樹研究所における「ふじ」の果実肥大（暦日比較）は、暦日で比較すると縦径が平年比101%、横径が平年比104%で平年よりやや大きい状況です。また、果実の生育日数による比較でも、平年よりやや大きい状況です。着色は平年より遅れて推移しています。

県内産地では、8月25日から「つがる」の選果が始まりましたが、果実の着色の遅れが見られる地域がありました。

【花 き】

1 キク類

9月咲き品種は、7、8月の高温の影響が懸念されましたが、草丈はやや短かったものの、開花はほぼ平年並みでした。

また10月咲き品種では、平年並みに9月下旬から出荷が始まっています。

病害虫では、オオタバコガによる食害が多くみられました。

2 トルコギキョウ

各地方ともに抑制栽培の出荷が行われていますが、高温の影響で生育はやや前進傾向となっており、10月以降の出荷量はやや減少する見込みです。

なお、会津地方では、加温促成栽培用の年内定植苗の育苗が始まっています。

3 シュッコンカスミソウ

昭和村では、作付の遅れから彼岸までの出荷量が平年より減少しました。現在、出荷終盤を迎えており、収穫を終えた圃場ではパイプハウスの解体作業が始まっています。

南会津地方の生育は、平年並で、新品種マリーベールの導入により堅調な販売が行われています。

4 シンテッポウユリ

須賀川地方のシンテッポウユリは、1年生株（品種：「うつみね」）の晩生種が出荷されており、10月後半まで行われる見込みです。

5 ストック

8～9月に高温が続いた影響により、花芽分化の遅れが懸念されましたが、ほぼ平年並みの生育となっています。年内出荷の作型は、ほぼ計画どおりの出荷が見込まれています。

6 シクラメン

各地方ともに平年並みに順調な生育です。10月上旬からは、地元市場や関東市場へミニシクラメンの出荷が始まっています。

【飼料作物】

1 牧草

3番草は、ほとんどの地域で9月下旬までに収穫作業が行われましたが、放射性物質の影響等による利用制限、肥培管理を最小限に抑えたこと等により、収量は平年より少ない状況となりました。なお、一部地域では収穫作業の遅れや、収穫を見送る地域も見られます。

2 飼料用とうもろこし

震災等の影響により、平年に比べ播種作業が遅れたこともあり、生育はやや遅れていましたが、ほとんどの地域で9月下旬までに収穫作業が行われました。

収量は平年並みで、収穫期が比較的天候に恵まれ、良質な飼料が生産されています。

8月に実施した放射性物質のモニタリング検査の結果、飼料の暫定許容値を下回り、警戒区域と計画的避難区域を除く県内の全ての地域で、給与が可能となりました。

3 稲WCS

平年よりやや遅く8月下旬より収穫が開始され、9月下旬までにほとんどの地域で収穫が終了しました。

収量は平年並みで、収穫期が天候に恵まれ、良質な飼料が生産されています。

9月に実施した収穫後の放射性物質のモニタリング検査の結果、飼料の暫定許容値を下回り、県内の作付けされた全ての地域で、給与が可能となりました。

◎ 病害虫の発生状況や防除情報については、病害虫発生予察情報（ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/fappi/index.html>）等を活用し、適切に対応してください。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL(024)521-7336

<http://www.pref.fukushima.jp/keieishien/kenkyuukaihatu/gijyutsufukyu/seiikugijyutsujyohou.html>